

# SHIUNKAI

## 志雲会

ともに正しい歴史を学ぶ。

お問合せ ▶

SHIUNKAI  
I will regain the proud Japan

志雲会について

about  
SHIUNKAI

テーマについて

about THEME

講演内容

Lecture contents

スケジュール

Schedule

「誇りある日本」へ。

志雲会とは、戦後日本の偏った歴史教育、報道により歪められた日本観、日本人観を正すために、日本の歴史を正しく学び、「誇りある日本」を取り戻し、日本が世界平和をリードしていくためにともに学びあう場です。

## 「反グローバリズム」 グローバリズムの弊害を直視せよ

第3回 志雲会東京

令和2年2月21日

講師 村田 一

# 「反グローバリズム」

## ～グローバリズムの弊害を直視せよ～

### － 目次 －

0. 講師の自己紹介と問題意識.
1. 古事記から学んだ日本人のアイデンティティで、  
「グローバリズム」を批判的に検証したいと思います.
2. 1990年代バブル崩壊後、およそ30年に亘って、日本経済の低迷が続いているのは何故なのか.  
⇒それは「グローバリズムに基づく政策」が繰り返し実行された結果である.
3. そもそも、「グローバリズム」とは何か、いつから、どのような経緯で始まったのか.
4. グローバリズムの始まりと、グローバリズムが浸透した経緯.
5. グローバリズムの弊害：経済危機、格差拡大、社会崩壊.
6. 政策の転換をはかるには、 ～皆さんと考えたいと思います.

# 0. 講師の自己紹介と問題意識 (1/3)

## ●自己紹介

- ・東京都板橋区出身、1951年3月生まれ。サラリーマン生活通算46年。もうすぐ古希です。
  - ・ 1974年、大学卒業。ソフトウェア開発会社(7年)を経て、1981年、オリックス(金融サービス会社)へ。
  - ・ 1981年～2000年、社内およびグループ会社の情報システムの開発・保守を担当(19年)。
  - ・ 2000年、監査部門に異動。以後、社内およびグループ会社の内部監査を担当(11年)。
  - ・ 2011年～2020年、定年退職の後、ソフト開発専門会社に転職し、内部監査を担当中(8年)。

- 
- ・ 2003年～評論家小浜逸郎さんが主宰するカルチャー教室や読書会に参加。

他にいくつかの歴史勉強会に参加。

- ・ 2018年、読書会の元主要メンバが主宰する「交観会BUNSO」という勉強会に参画。
- ・ 2019年12月、森康晴さん（※）が企画された「志雲会東京」の発足会に参加。

※ 森さんとの出会い ⇒ 次ページを ご覧ください

主宰者の小浜逸郎さん



# 0. 講師の自己紹介と問題意識 (2/3)

## ●森さんとの 出会い 2019年6月29日(土)

斎藤武夫先生(※)の 第4回「日本が好きになる!歴史全授業講座 inさいたまSeason3」  
@大宮 で、同じ聴講生としてお会いしたのが初めての出会いでした。

### ※ 斎藤先生の授業

第1回:斎藤武夫先生の日本が好きになる!歴史全授業講座inさいたま  
Season II 2018年4月7日 <告知文より>

歴史は他人事（ひとごと）の知識の断片ではありません  
歴史は私たちのご先祖様が歩いてきた道です  
いま私たちが預かっている命がたどってきた道です  
先人が日本を建設し守り発展させてきた努力の足跡です  
子どもたちは この国づくりのバトンを受けつぎ未来につなぎます  
歴史は「暗記科目」ではありません

斎藤先生の「日本が好きになる!歴史全授業」は  
わくわくドキドキする授業です  
先祖と一緒に悩み、考え、決断する授業です  
教室のみんなで考えを話し合う授業です  
何よりも素晴らしいのは子供達の自己肯定感を育てることです

斎藤武夫先生のFacebook (プロフィール写真)



正論SP vol.3 産経教育委員会 100  
の提言 (日エムック) 2018/5/18  
[巻頭言] 自分につながる話として  
歴史を学ぼう! 斎藤武夫

[巻頭言] ⇒ 資料A 4

# 0. 講師の自己紹介と問題意識 (3/3)

## ●問題意識

- 1990年代バブル崩壊後、およそ30年に亘って、日本経済の低迷が続いています。
  - 2008年、世界的にはリーマンショックがあり、日本もその影響を受けました。
  - 2011年、東日本大震災が発生し、その復興が課題になりました。
- 2013年には、アベノミクス効果で円安株高となり、輸出企業を中心に一時業績の回復が見られました。
- しかし、その後の消費税増税（2014年10月に8%、2019年10月に10%）によって景気は低迷を続けています。
- その元凶は何でしょうか？  
日本政府のグローバリズムに則った政策ではないでしょうか？

# 1. 古事記から学んだ日本人のアイデンティティで「グローバリズム」を批判的に検証したいと思います

第2回は、「古事記から学ぶ大国主命の国譲り」を学びました。

そのとき私が予習書として読んだ『古事記は日本を強くする』（2012年 徳間書店 中西輝政 高森明勅 著）の中に印象に残った、見出しやフレーズがあります。

- ・米占領下の日本改造計画は、神話を排除することだった（P.42）
- ・間違いは、西洋人になった気分で日本古来のものを断罪していくこと（P.76）
- ・グローバル社会だからこそ必要とされる「神話という背骨」（P.132）
- ・日本人のアイデンティティが危機的状況にあると感じる局面を何度も目にしている（P.134）
- ・外国に行くと「日本人とは何か」を強く意識した（P.134）
- ・『古事記』が伝える「明(あか)き、清き、直き心」(正直で素直な心)が日本人のアイデンティティ(P.251)



そこで、この「日本人のアイデンティティ」を自覚しつつ、改めて、ここ30年に亘る日本の政策を批判的に検証してみたいと思います。

するとそこに、安易に「グローバリズム」を受け入れてしまった日本の姿が見えてくるように思います。

政治家しかり、官僚しかり、財界しかり、経済学者しかり・・・です。

## 2. 1990年代バブル崩壊後、およそ30年に亘って 日本経済の低迷が続いているのは何故か

・その理由を、識者の見解にあたってみた結果を紹介します。

① 中野剛志さん：“日本衰退の元凶「新自由主義」” 月刊FACTA 2019年10月号

“なぜ、日本経済は成長しなくなったのか。答えは簡単である。政府が「デフレ下におけるインフレ対策」という愚行を続けてきたからだ。” ⇒ 資料① に 詳しく 紹介します。



〈なかのたけし〉 評論家

1971年生まれ。東大教養学部卒。通商産業（現経済産業）省に入り、英エディンバラ大学大学院で博士号取得。近著『奇跡の経済教室』  
〈基礎知識編〉〈戦略編〉の2冊が話題に。

② 施光恒さん：“「多国籍企業中心主義化」と称すべき” ⇒ 資料②に詳しく紹介します。

「新」経世済民新聞メールマガジン 2018年9月28日号



〈せてるひさ〉 1971年、福岡県生まれ。政治学者。九州大学大学院比較社会文化研究院教授。慶應義塾大学法学部政治学科卒。英国シェフィールド大学大学院政治学研究科哲学修士課程(M.Phil)修了。慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程修了。博士(法学)。専攻は政治理論、政治哲学。著書に『リベラリズムの再生』（慶應義塾大学出版会）、共著に『TPP 黒い条約』（集英社新書）など。

### 3. そもそも、「グローバリズム」とは何か、いつから、どのような経緯で始まったのか (1/2)

●まず初めに「グローバリズム」という言葉の説明から。菊池英博さん著『新自由主義の自滅』（2015年7月刊行）から

└=====⇒

グローバリゼーションとグローバリズムの違いからみていきます。

#### (1) グローバリゼーション

邦訳は「グローバル化」であり、

「ヒト・モノ・カネの国際間の流れを自由にするために、障壁を取り払い、世界各国の政治や経済の流れを良くしよう」とすることです。

1990年代初頭に冷戦が終了し、ソ連邦が崩壊し、東ヨーロッパ内の自由主義経済への参入によって、グローバリゼーション（グローバル化）が普及し始めます。

#### (2) グローバリズム

「新自由主義にもとづくアメリカニズム（新自由主義型資本主義）」をさす言葉で、「グローバル化」が「グローバリズム」になるものではありません。

グローバリズムという言葉は「新自由主義(ネオ・リベラリズム)」というイデオロギーを宣伝するために使われた言葉であり、決して普遍的な概念でも歴史的必然でもないのです。



【きくち ひでひろ】  
1936年生まれ。東京大学卒業、旧東京銀行（三菱東京UFJ銀行）入行。国際投融資の企画と推進、銀行経営に従事。ミラノ支店長、豪州東京銀行頭取などを歴任。元文京学院大学教授、日本金融財政研究所所長。

### 3. そもそも、「グローバリズム」とは何か、いつから、 どのような経緯で始まったのか (2/2)

ソ連邦が崩壊した1991年以降、米国が一国覇権国家となったことで、日本や発展途上国に対して新自由主義に基づく政策を、いかにも普遍的なものであるかのように思い込ませるために盛んに用い始められます。

特に日本に対しては、米国は敢えて両者を意識的に混合させて、新自由主義型資本主義(グローバリズム)が世界の基準であるかのような誤った宣伝を強めました。

日本では大マスコミが両者を混同して報道しており、多くの日本国民も「グローバル化が進むので、グローバリズムを受け入れるのは当然だ」と思い込んでしまった。

★ 2018年9月に「リーマン・ショック」が起こるまでは、実は私:村田も、そのように思い込んでいました。

<三橋貴明さん著『経済学が引き起こした2つの大罪』の中にある用語解説から引用します>

一般的には、国境を越えて、地球規模で取引される経済活動を指す。世界全体を市場と捉え、モノや人やお金の移動をできる限り自由にすることで、世界経済が活性化されるという考え方に基づいている。

武漢発の新型コロナウイルス  
災禍がまさに  
その典型です

しかし、現実には資源国や工業国、金融資本を多く持つ国など、一部の国に富みが集中して勝ち組となり、低開発国は負け組から脱することができないという、国家間格差を拡大することとなった。

また、国境を越えた経済活動をするといっても、国家という枠組みは依然として存在するため、何らかの有事が起こった際、必要なモノ、サービスが供給されなくなる危険性をはらむことになる。

## 4. グローバリズムの始まりと、グローバリズムが浸透した経緯 (1/4)

●次に、グローバリズムの始まりと、グローバリズムが浸透した経緯をみてみます。

〔この情報も、菊池英博さん著『新自由主義の自滅』(2015年7月刊行) から〕

### (1) 新自由主義の提唱者と発言

新自由主義という思想 (イデオロギー) の創始者は、1912年生まれのミルトン・フリードマンという経済学者です。

1912年7月31日 - 2006年11月16日) は、アメリカ合衆国の経済学者。古典派経済学とマネタリズム、市場原理主義・金融資本主義を主張しケインズの総需要管理政策を批判。ケインズ経済学からの転向者。共和党支持者。1976年、ノーベル経済学賞受賞。



### (2) 新自由主義の基本的理念

キーワード：市場万能主義、小さい政府、健全財政(緊縮財政)、トリクルダウン、フラット税制、累進課税の否定、福祉国家の否定、金融万能主義(マネタリズム)、「財政政策の否定(公共投資による景気振興策と富の再配分を否定)」、「規制緩和」

#### ① 市場万能主義

ケインズ経済学「政府が需要を管理し調整していけば経済が安定し成長する」を否定。  
新自由主義で「産業政策は必要なく、規制緩和と減税をすれば供給サイドが強くなる」

#### ② 小さい政府

富裕層の減税、フラット税制、累進課税の否定、社会保障制度を否定。  
⇒この結果、貧富の格差と所得格差が拡大

#### ③ 金融万能主義(マネタリズム)

財政支出は必要ない(小さい政府)、金融緩和で景気は回復する  
「大恐慌のデフレを解消したのが、財政支出による有効需要創造にあった」という事実を否定

## 4. グローバリズムの始まりと、グローバリズムが浸透した経緯 (2/4)

### ● グローバリズムの始まりと、グローバリズムが浸透した経緯 (続き)

#### (3) 第二次世界大戦後の福祉型資本主義を潰す新自由主義

アメリカでは、戦前の大恐慌の反省から、戦後は経済成長と経済的平等を両立させる政策を実施。法人税と所得税とともに累進税制とした。福祉型資本主義の時代。  
1950～60年代のアメリカでは、社会的中間層が大幅に増え、新規投資が雇用と所得を生み、消費の拡大が投資を呼ぶという好循環で経済が成長し、安定した社会を形成。

一方で、アメリカの伝統的富裕層は、富裕層への富の配分を増やすような政治指導者を求めている。その代表格がネオ・コンサーバティブ(新保守層、ネオコン)であった。  
かれらは、福祉型資本主義を潰して、新自由主義資本主義をつくろうとしたいた。

#### (4) スタグフレーションを理由に新自由主義が政権を奪取

1960年代後半から70年代にかけて、ベトナム戦争による財政赤字と石油危機による輸入インフレで、経済が低迷して失業率が上がって行くという「スタグフレーション(不況下のインフレ)」が生じた。こうした中、カーター大統領は1979年、FRB(※)理事長にボルカーを指名。ボルカーは高金利政策を取入れてインフレ抑制に成功。これで、それまでケインズ派の政策ではなかなか抑えられなかったスタグフレーションを、マネタリスト的な発想(通貨量調整)で抑えた。  
これが大きな転機となって、以降マネタリストが政権の中樞を占めるようになった。

## 4. グローバリズムの始まりと、グローバリズムが浸透した経緯 (3/4)

### (5) 英米でサッチャリズムとレーガノミクス

#### ① 英国はサッチャリズムで福祉国家を破壊



イギリスの政治家、一代貴族。(1925年10月13日 - 2013年4月8日)。イギリス保守党初の女性党首(在任: 1975年 - 1990年)、イギリス初の女性首相(在任: 1979年 - 1990年)。1992年からは貴族院議員。保守的かつ強硬なその政治姿勢から「鉄の女(英: Iron Lady)」の異名を取ったことで知られる。

- ・保守党党首サッチャーは、1979年の下院議員選挙で、停滞している経済情勢を打開するために、「小さい政府」「規制緩和」「政府の市場への介入を制限」「政府の国民への金品の無償供与停止」などの政策を掲げて大勝。
- ・大企業に有利な大幅な減税と規制緩和、強硬な反労働組合政策をとった。  
その結果、社会は混乱し、組合はストライキで対抗し、製造業は低迷し失業率が上昇。
- ・ロンドンの金融資本市場の活性化。医療関連費用や社会保障費、教育費の削減。  
医療費予算を大幅に削減したために、国民皆保険制度が破壊された。
- ・その後財政赤字が拡大し、人頭税を持ち出し、国民の猛反発にあい、1990年に辞任。
- ・このサッチャーの辞任こそ、新自由主義がもたらした必然的な結末といえる。

## 4. グローバリズムの始まりと、グローバリズムが浸透した経緯（4/4）

### (5) 英米でサッチャリズムとレーガノミクス

#### ② 米国はレーガノミクスで軍事ケインズ政策

- ・新自由主義・市場原理主義が自らの利益を増加させると歓迎した政治勢力に、米国のネオコンがあった。1980年の大統領選挙では共和党のレーガンを支援し当選に導いた。



アメリカ合衆国の俳優、政治家。(1911年2月6日 - 2004年6月5日) カリフォルニア州知事、第40代大統領を歴任。大統領在任：1981年1月20日 - 1989年1月20日)。歴代2番目の高齢（69歳349日）で選出されたアメリカ大統領である。対日関係上の愛称は「ロン」

- ・レーガン大統領は「経済再生計画」として、  
<1>「小さい政府」にするため社会福祉関連予算を削減する一方、「強いアメリカ」を作るために軍事費を増加、  
<2>所得税、法人税の減税、<3>政府の規制を大幅に縮小、<4>金融規制を緩和・・・という政策を実行。  
・これらの政策は総合して「レーガノミクス」と称せられたが、まさに、戦後の福祉型資本主義を破壊し、富裕層中心の新自由主義型資本主義への歴史的 policy 転換だった。

| 税率         | カーター政権時代 | レーガン政権時代 |
|------------|----------|----------|
| 個人所得税の最高税率 | 70%      | 28%      |
| 法人税の最高税率   | 46%      | 34%      |

- ・この結果、国家の税収が負債（国債）に転化し、財政赤字となった。
- ・ドル高政策により、米国の製造業は海外移転を増やし、完成品の輸入が増加。
- ・こうして米国は双子の赤字（財政赤字と貿易赤字）となった。

## 5. グローバリズムの弊害：経済危機、格差拡大、社会崩壊 (1/6) 〔2013年12月 国際シンポジウム「グローバル資本主義を超えて」より〕

2013年12月2日、京都大学レジリエンス研究ユニット（ユニット長：京大教授・藤井聡氏）主催の「グローバル資本主義を超えて」の国際シンポジウムが、国立京都国際会館で開催されました。

このシンポジウムの内容は『グローバリズムが世界を滅ぼす』（文春新書）2014年6月刊行に詳しく紹介されています。その要約を見つけたので、資料③に貼り付けました。この後、そのポイントを説明します。

ここでは、このシンポジウムで議論された、内容のハイライトが、公式サイトに掲載されていますので（URL：<http://trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp/tba/bgc/index.html>）ここにピックアップして紹介します。

- 挨拶文から (2/6)
- 藤井聡さんの講演のハイライト (3/6)
- 柴山桂太さんの講演のハイライト (4/6、5/6、6/6)

## 5. グローバリズムの弊害：経済危機、格差拡大、社会崩壊 (2/6) 〔2013年12月 国際シンポジウム「グローバル資本主義を超えて」より〕

### ●挨拶文から

世界経済の発展を導き、世界中の人々の幸福の増進に資するであろうと多くの人々が素朴に信じていた「グローバル資本主義 Global Capitalism」は、その本質的問題を徐々に露呈し始めています。とりわけ、2008年のリーマンショックはその本質的問題を誰の目にも明らかな形で顕在化させ、今日では、ギリシャ問題を抱えたEUにおいても、巨大な所得格差や地域間格差によって不安定化しつつある中国においても、巨大なデフレギャップを抱えるに至ったアメリカにおいても、そして20年にも渡る長いデフレ不況にあえぐ日本においても、大多数の人々が安定した仕事と暮らしを営むことができない状況へとたたき落とされるに至っています。

この状況に至ってもなお「グローバル資本主義」の有効性を信じて疑わぬ人々は未だ至る所で相も変わらぬ言説を述べ、それに基づく政策的実践を続けてはいるものの、この状況を前に、グローバル資本主義の終焉を冷静に理解し、それが本質的に抱えていた問題を把握し、これから何をすべきであるのかを政策的実践の形を構想しはじめた心ある人々が、世界各地に確実に現れはじめています。

本シンポジウムでは、そうした1929年の大恐慌後の世界に大いなる相違を為す巨大な混乱の淵にある今日の世界において、20世紀から21世紀初頭にかけて世界を席卷した「グローバル資本主義」を乗り越える方途を探ります。そのために、「グローバル資本主義」に対してそれぞれの立場でそれぞれの地で疑義を呈し続けてきた論者達が、グローバリゼーションが進行した21世紀の今日に於いてもなお日本の古い歴史と伝統が未だに息づく地である京都に論者達が集い、共に考えます。

## 5. グローバリズムの弊害：経済危機、格差拡大、社会崩壊 (3/6) 〔2013年12月 国際シンポジウム「グローバル資本主義を超えて」より〕

●藤井聡さんの講演の  
ハイライト



1968年生まれ。京都大学で博士（工学）取得ののち、スウェーデン・イエテボリ大学心理学科客員研究員、京都大学大学院助教授、東京工業大学大学院教授などを歴任。2009年より現職。2011年京都大学レジリエンス研究ユニット長、2012年12月より内閣官房参与。専門は国土計画等、公共政策に関する実践的人文社会科学全般。近著に「レジリエンス・ジャパン 日本強靱化宣言」、「強靱化の思想」など

### 現代のグローバリズムにおける全体主義 totalitarianism in globalism

全体主義をつくった  
社会的な俗情

In 1%の  
勝者集団

プロパガンダに  
活用された理論

悪をなした  
凡庸な人々

圧殺される人々

破滅的な帰結

(貪欲)“過剰供給”の処理＝資本家の強欲(→新帝国主義)  
(虚栄)一部の人々(政治家、経済学者、エコノミスト)の名誉欲  
(恐怖)反グローバリズムに対する抑圧に対する恐怖  
(存在論不安／ルサンチマン)社会崩壊によって  
アトム化した先進国の高学歴or資本家の“大衆”が、  
自らの居場所を与える“全体主義”を希求

(新自由主義的)経済理論(マネタリズム含む)  
ブラッセル(EU)ウォール街(USA)霞ヶ関・丸の内(日本)等の選民思想(エリート主義)

思考停止した、グローバリズム支持の(悪しき)一般エリート層  
思考停止し、肅々と命令に従う真面目な官僚達

格差社会の弱者側(途上国、非グローバル企業&農家、労働者等)  
反グローバリスト

弱者側における貧困と大量の死者、数々の街・風土の破壊  
世界中の国民の祖国そのものの解体

## 5. グローバリズムの弊害：経済危機、格差拡大、社会崩壊 (4/6) 〔2013年12月 国際シンポジウム「グローバル資本主義を超えて」より〕

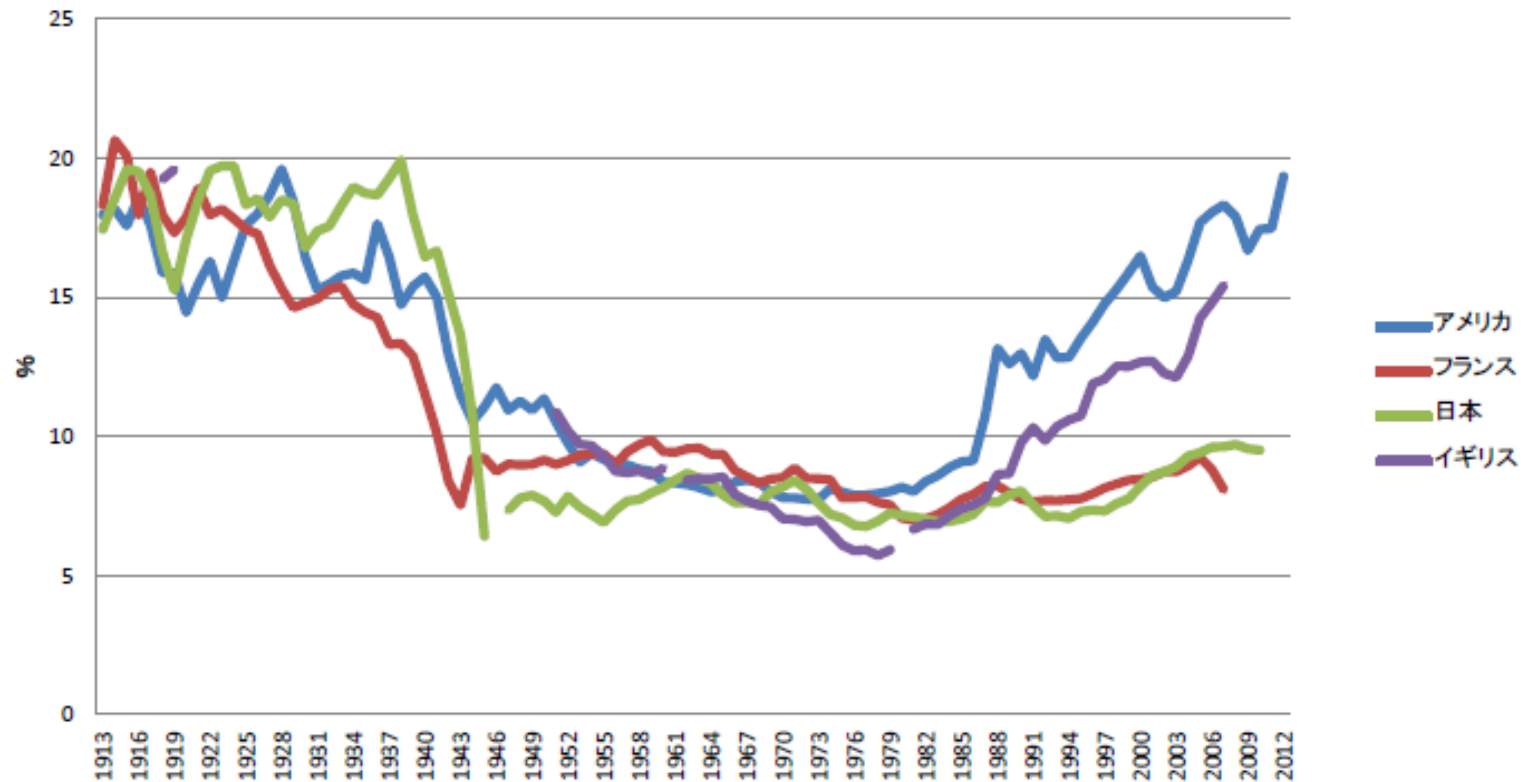
●柴山桂太さんの講演の  
ハイライト ①



1974年生まれ。京都大学経済学部卒業後、同大学人間・環境学研究科博士過程単位取得退学。現在、滋賀大学経済学部准教授。専門はイギリスを中心とした政治経済思想。編著に「現代社会論のキーワード」など。共著に「ナショナリズムの政治学」「危機の思想」「グローバル恐慌の真相」「文明の宿命」「TPP黒い条約」など。著書に「静かなる大恐慌」。

### 格差社会の「再来」

上位1%による所得占有率

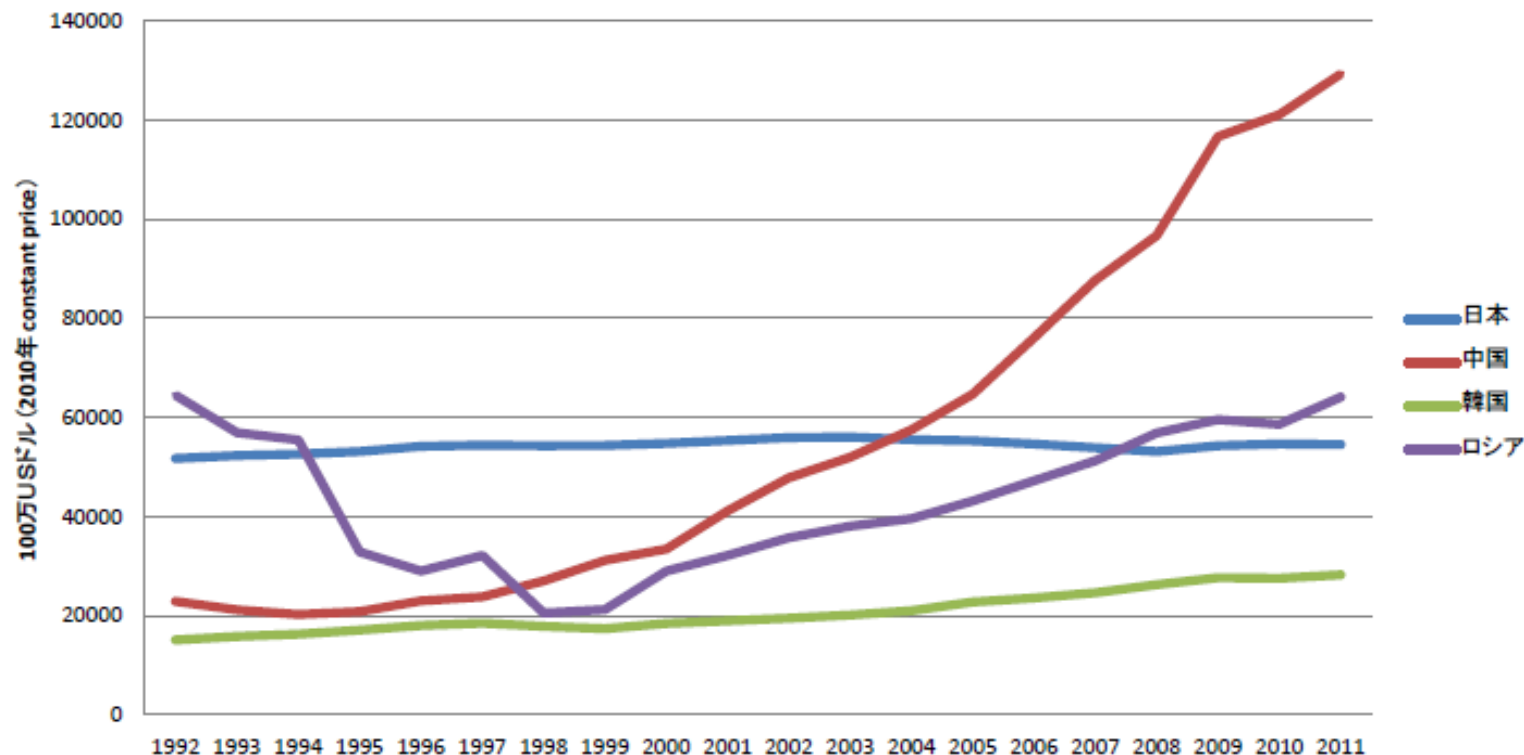


## 5. グローバリズムの弊害：経済危機、格差拡大、社会崩壊 (5/6) 〔2013年12月 国際シンポジウム「グローバル資本主義を超えて」より〕

●柴山桂太さんの講演の  
ハイライト ②

### 東アジア軍事バランスの変化

日本、および周辺国の軍事費の推移(1992-2011)

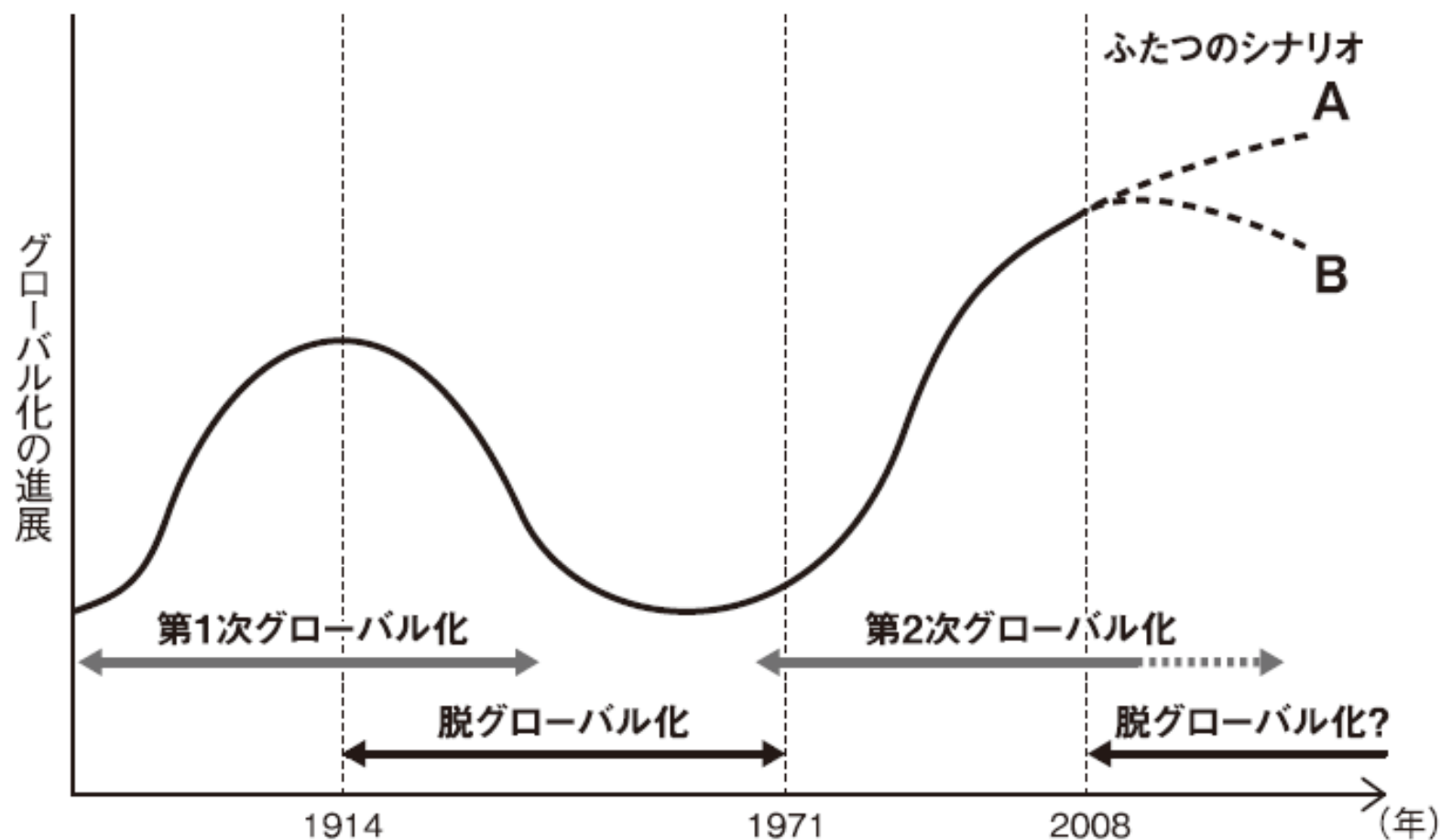


東アジアは中東と並び、地政学的リスクが高まっている地域

## 5. グローバリズムの弊害：経済危機、格差拡大、社会崩壊 (6/6) 〔2013年12月 国際シンポジウム「グローバル資本主義を超えて」より〕

●柴山桂太さんの講演の  
ハイライト ③

### グローバル化の二つの波



## 6. 政策の転換をはかるには ～皆さんと考えたいと思います～ 三橋貴明さん著『財務省が日本を滅ぼす』をヒントに (1/2)



作家・経済評論家。中小企業診断士。1994年、東京都立大学(現:首都大学東京)経済学部卒業。外資系IT企業ノートルをはじめNEC、日本IBMなどを経て2008年に中小企業診断士として独立、三橋貴明診断士事務所を設立した。現在は、経済評論家、作家としても活躍中。2007年、インターネットの掲示板「2ちゃんねる」において、公開データの詳細な分析によって韓国経済の脆弱な実態を暴く。これが反響を呼んで『本当はヤバイ!韓国経済』(彩図社)として書籍化されて、ベストセラーとなった(「BOOK著者紹介情報」より:本データは『経済ニュースが10倍よくわかる「新」日本経済入門 (ISBN-13: 978-4776206187)』が刊行された当時に掲載されていたものです)

### 序章 財務省の二つの大罪

#### 第1章 グローバリズムのトリテニティ

(明暗を分けたフランスとドイツ 現状に怒りを持つ若者たちが文在寅を勝たせた ほか)

#### 第2章 「プライマリーバランス黒字化目標」という大愚策 (現在の政策はすべてインフレ対策

ピークに比べて日本国民は**15%**も貧乏になった ほか)

#### 第3章 緊縮財政主義がすべてを壊す(48兆円から25兆円まで 縮小した公的固定資本形成

日本は「インフラ大国」ではない ほか)

#### 第4章 財務省は平気で嘘をつく(なぜか政府資産を公表しよう としない知られたくない国債の貨幣化 ほか)

## 6. 政策の転換をはかるには ～皆さんと考えたいと思います～ 三橋貴明さん著『財務省が日本を滅ぼす』をヒントに (2/2)

財務省の「財政破綻」プロパガンダに基づく緊縮財政路線には、二つ、大きな罪がある。

一つ目：

日本経済のデフレ脱却を妨げ、国民の貧困化、国力の衰退化を促進し、最終的には「発展途上国」へと、わが国を導いている点。財務省の緊縮財政至上主義は、日本国を小国化することで、最終的には「亡国状態」に迫いやろうとしている。

二つ目：

日本のデフレを継続させることで、日本の様々な制度を破壊し、国の形すら変貌させてしまうグローバリズム路線を正当化させてしまう点。

代表的なグローバリズムの政策である「規制緩和」「自由貿易」と、財務省が推進する「緊縮財政」の三つは「政府を小さくする」という点で根っこが同じなのである。それどころか、緊縮財政が規制緩和、自由貿易を正当化、している。